

## 学長候補者の決定について

国立大学法人愛媛大学学長選考規程第 8 条第 1 項の規定に基づき、学長候補者を決定したので、下記のとおり公表する。

### 記

1 学長候補者 に しな ひろ しげ  
仁 科 弘 重

任期：3 年間（令和 3 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 3 1 日まで）

2 選考理由

学長選考会議は、国立大学法人愛媛大学学長選考基準に定める「学長に求められる資質・能力」に照らし、候補適任者 仁科 弘重 氏（現 国立大学法人愛媛大学理事・副学長）について、推薦書並びに経歴書及び所見の書面審査とともに、面接を行った。

同氏は、愛媛大学の在り方を見据えた明確なビジョンを持った上で、本学の特色・強みとする地域の優位性を引き出す能力に秀でていいる。

理事・副学長、社会連携推進機構長として、これまでに様々な産業界関係者や組織との交流を通して現在の社会状況の把握に努めると共に、学内における対話も重視し、地域社会との連携強化・促進という新しい特色・強みを構築してきた。本学における教育研究内容を精査し、文系理系を問わず、地域密着型センターの設置を進めてきた業績は特筆すべきものであり、地域のステークホルダーと学内の共創環境構築に繋げている。また、本学の発展に向けた企画に主導的に関わり、卓越したリーダーシップ、マネジメント力、実行力により、教育改革や組織再編の実績を重ねた。これらにより、優れた人材の輩出を含めた本学の機能強化が図られ、地域社会の発展に寄与した。

さらに、平成 29 年 10 月からは、緑化感性工学、生物環境調節学、環境制御学における実績により、日本学術会議会員として活躍している。

これらが評価され、このたび全ての学部から学長候補適任者として推薦を受けるに至っており、学内における信頼を得ていることも窺える。

加えて、With/After コロナ社会にあっても、多くの困難が想定内だったと思ってもらえる教育を目指す旨の抱負を述べている。

以上から、同氏は、現在の本学が置かれている状況を分析し、強いリーダーシップや

マネジメント力を発揮し、柔軟性とコミュニケーション力により改革を実行することができる人物であるといえる。困難な時代にあつて、新たな特色・強みを生み出す地域の知の拠点として多様性を持ち続け、立ち直る力を持った持続可能な社会の構築に貢献できるよう本学を導くことが期待される。

したがって、学長選考会議は、同氏が「学長に求められる資質・能力」を満たしていると判断し、全会一致で同氏を次期学長候補者に決定した。

### 3 選考過程

令和2年3月19日	学長選考会議は、学長に求められる資質・能力及び学長選考の手続き・方法について基準を定め公表した。
令和2年5月18日	学長選考会議は、学長候補者の選考について公表した。 学長選考会議は、各学部へ候補適任者の推薦を依頼した。
令和2年8月7日	学長選考会議は、各学部から候補適任者1名の推薦を受け、推薦書、経歴書、受諾書及び所見（別添のとおり）を受理した。なお、職員30人以上の連署による推薦及び学長選考会議による候補適任者の選出はなかった。 学長選考会議は第一次選考を行い、1名を候補適任者として選考し、公表した。
令和2年9月14日	学長選考会議は、候補適任者に所信を表明する機会を与えるため、演説会（学内動画配信）を行った。（令和2年9月18日まで配信）
令和2年9月24日	学長選考会議は、候補適任者に面接を行った上で、推薦書、経歴書、所見、演説会の内容等を総合的に判断し、学長候補者を決定、公表した。

以上

令和2年9月24日

愛媛大学学長選考会議

# 推 薦 書

令和2年7月22日

愛媛大学学長選考会議議長 殿

## 推 薦 書

学部名 法文学部

ふりがな 学長候補適任者氏名	にしな ひろしげ 仁科 弘重
職 名	国立大学法人愛媛大学理事・副学長
推薦理由（800字以内）	
<p>仁科弘重氏は、昭和61年3月に愛媛大学農学部助教授に着任後、平成10年4月に教授に昇任し、平成23年4月から愛媛大学農学部長を2期4年間務められた後、平成27年4月に愛媛大学理事・副学長、社会連携推進機構長に就任され、現在に至っております。</p> <p>仁科理事は、地域協働センター西条、地域密着型文系研究センター、地域協働センター南予の設置など、社会連携の分野で多大なる貢献をしています。令和2年6月には、一般社団法人えひめベンチャー支援機構代表理事に就任し、地域における起業活動にも活動を広げようとしています。</p> <p>研究面におきましては、仁科理事は日本生物環境工学会を中心にご活躍され、平成31年1月からは会長に就任されております。平成29年10月には農学分野の功績が認められて日本学術会議会員に選ばれております。</p> <p>法文学部にとりましては、法文学部附属センターでありました四国遍路・世界の巡礼研究センターを、地域密着型文系研究センターの一つとして全学センター化を進めていただきました。また、地域協働センター西条においても、法文学部の教員が積極的に関わられるようご配慮いただきました。さらには、法文学研究科の人文社会科学研究科への改組におきましては、企画担当理事として文科省説明にご同行いただき、また検討過程では、新研究科を構成する法文学部と社会共創学部の調整役として誠実にご対応いただきました。</p> <p>仁科理事は地域社会に積極的に関わって愛媛大学の社会的使命を試行錯誤しながら切り開いて来られましたし、日本学術会議会員に象徴されますように研究者として高く評価されております。また、愛媛大学における文系の様々な活動にもご理解をいただいていると理解しております。法文学部は、全国の国立大学が置かれた現在の厳しい状況において、第4期中期目標期間に向けて愛媛大学を率いる最も相応しい愛媛大学長として、仁科弘重理事をご推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

令和2年 7月 27日

愛媛大学学長選考会議議長 殿

## 推 薦 書

学部名

教育学部

<small>ふりがな</small> 学長候補適任者氏名	<small>に しな ひろ しげ</small> 仁 科 弘 重
職 名	愛媛大学理事・副学長（社会連携・企画担当）、社会連携推進機構長、愛媛大学大学院農学研究科教授
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科弘重先生は、昭和61年に愛媛大学農学部助教授として着任後、平成10年には農学部教授、平成23年度には愛媛大学農学部長を務められました。また、平成27年からは愛媛大学理事・副学長、社会連携推進機構長のお立場で、大橋現学長を2期に渡りサポートして来られました。</p> <p>仁科弘重先生は、愛媛大学理事の在任中から地域連携、産学連携を主導的に推進されてきました。具体的には、県内全20市町との連携協力協定の締結をはじめ、地域活性化のために公・民・学が連携する拠点として、「地域協働センター西条」「地域協働センター南予」といった地域密着型センターを設置されました。さらに、「地域密着型文系研究センター」「地域専門人材育成・リカレント教育支援センター」の設置など、大学の持つすべての知的資源を地域に還元できる基盤作りに精力を傾けられています。</p> <p>教育学部および教育学部附属学校園でも、地域の教育機関・団体、行政機関、企業や経済団体などのステークホルダーとの連携を強化するとともに、人材育成や共同研究の協力体制を整備し、その成果を積極的に地域に還元しようと考えています。特にインクルーシブ教育システム、外国語活動や国際理解教育、ICT活用教育、アクティブ・ラーニングなどのモデル的取り組みを実施すると同時に、それらの課題に対応しうる教員志望学生並びに現職教員の専門性向上を図りたいと考えています。</p> <p>今後も国立大学法人が置かれている状況は厳しさを増す一方です。このような状況だからこそ、将来の地方国立大学のあり方についての明確なビジョンのもと、実績を積み重ねて来られた仁科弘重先生にリーダーシップを発揮していただくことが、これからの愛媛大学のますますの発展への近道であると確信しています。教育学部及び教育学部附属学校園は、今後の愛媛大学のさらなる発展のために、仁科弘重先生を次期学長候補適任者として推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

愛媛大学学長選考会議議長 殿

## 推 薦 書

学部名 社会共創学部

ふりがな 学長候補適任者氏名	にしな ひろしげ 仁 科 弘 重
職 名	愛媛大学理事・副学長（社会連携・企画担当）
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>本学部は、現理事・副学長（社会連携・企画担当）の仁科弘重氏を、次期学長候補適任者として、以下のとおり推薦する。</p> <p>同氏は、平成23～26年度まで農学部長を務められた後、平成27年度から現在に至るまで、理事・副学長として大学の管理運営に携わって来られた。社会連携担当理事として、（1）地域連携：県内全20市町との連携協力協定締結、「地域協働センター西条」「地域密着型文系研究センター（地域共創研究センター、四国遍路・世界の巡礼研究センター、俳句・書文化研究センター）」「地域専門人材育成・リカレント教育支援センター」「地域協働センター南予」の設置において、主導的な役割を果たされた。また、本年度末までに予定されている「地域協働センター中予（仮称）」「IT、アグリ、食品、健康に係る総合的研究センター」の設置においても、主導的な役割を果たされている。（2）産学連携：学術指導制度の導入、共同研究に係る間接経費の見直し、知的財産センターの強化、産学連携推進センターの強化（部門制の導入）、大学発ベンチャー支援体制の構築など、本学における産学連携の推進に大いに尽力された。</p> <p>平成30年度以降、企画担当理事として、（3）大学院改組：人文社会科学研究科（修士課程）の設置、教育学研究科の改組（教育実践高度化専攻、心理発達臨床専攻）、医学系研究科の改組（看護学専攻博士課程の設置）にリーダーシップを発揮し、教育研究の組織作り及び部局間の調整に尽力され、改組・設置を成功に導かれた。</p> <p>以上のように、同氏の長年にわたる理事・副学長としての実績を踏まえ、求められる学長としての資質を十分有しているものと判断する。次年度以降、愛媛大学学長としてリーダーシップを発揮し、愛媛大学のより一層の発展を導いていただきたい。</p>	

愛媛大学学長選考会議議長 殿

推 薦 書

学部名 理学部

<p style="text-align: center;">ふりがな 学長候補適任者氏名</p>	<p>にしな ひろしげ 仁科 弘重</p>
<p style="text-align: center;">職 名</p>	<p>国立大学法人愛媛大学 理事・副学長（社会連携・企画担当） 社会連携推進機構長 農学研究科 教授</p>
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科弘重氏は、昭和61年3月愛媛大学農学部に着任後、平成10年4月から農学部教授、平成23年4月から農学部長を歴任し、平成27年4月から理事・副学長・社会連携推進機構長に就任されております。緑化感性工学、生物環境調整学、環境制御学を専門とし、植物工場を立ち上げるなど、専門分野の研究を社会貢献につなげる著しい業績を上げております。また、現在、日本学術会議会員であり、農学委員会幹事、農業生産環境工学分科会委員長を務めておられます。</p> <p>平成23年の農学部長就任以降、仁科氏は大学運営においてとくに多大な実績を上げておられます。平成28年の農学部・農学研究科の改組においては、3学科・3専攻への再編を農学部長として実行し、人材輩出機能強化に貢献されました。この組織改編に係るリーダーシップは今後予定されている研究科連係課程の設置や理工学研究科改組においても発揮されるものと期待しております。平成27年から現在に至る理事および社会連携推進機構長としては、県内全20市町との連携協力協定の締結をはじめ、地域協働センター西条・南予・中予（仮称）、地域密着型文系研究センター、地域専門人材育成・リカレント教育支援センターなどの計画立案と設置、といった「大学の地域連携強化」に関するもの、人文社会科学・教育学・医学系の研究科設置や改組、SDG's推進室やデータサイエンスセンターの設置、文部科学省との徹底対話、など「大学の将来発展に向けた企画」に関するもの、などに主導的に係わるなど、その実績には枚挙にいとまがありません。</p> <p>このように、仁科弘重氏は大学運営の機能強化や環境整備に優れた指導力と実行力で着実に実績をあげておられることから、国立大学法人愛媛大学学長選考基準に定める、学長に求められる資質・能力を備えた人物であり、本学の更なる発展にとって不可欠であると確信し、理学部は次期学長候補適任者として推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

令和2年7月27日

愛媛大学学長選考会議議長 殿

## 推 薦 書

学部名 医 学 部

ふりがな 学長候補適任者氏名	にしな ひろしげ 仁科 弘重
職 名	愛媛大学理事・副学長（社会連携・企画担当）
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科氏は、平成27年4月に社会連携・渉外担当（平成30年4月からは社会連携・企画担当）の理事・副学長及び社会連携推進機構長に就任され、外部機関との調整・交渉でその手腕を発揮し、大橋現学長を支えてこられました。また、平成29年10月より日本学術会議会員を務められ、政府への政策提言も行っておられます。</p> <p>仁科氏は、第3期中期目標期間におけるビジョン「輝く個性で地域を動かし世界とつながる大学」のもと、第2戦略である「地域産業イノベーションを創出する機能の強化」の遂行において中心的な役割を担い、COC事業を通じて地場産業の活性化や地域イノベーションを創出する人材の育成を実践されてきました。さらに、地方自治体との連携を積極的に推進し、ステークホルダーとの協働体制を構築するとともに、地域密着型研究センターを設置するなど、多くの成果を挙げておられます。現在、医学部では、仁科氏のリーダーシップのもと、予てから実施してきたとうおん健康医療創生事業と全学的な取組の融合を図るためのプラットフォーム、「地域協働センター中予」の設置に向け、東温市との連携強化を進めているところです。</p> <p>さらに、仁科氏は、愛媛大学のもつ研究力、教育力を最大限に活かし、地域産業や地元企業が抱える技術的諸課題の解決等を通して、地域社会の発展にも積極的に取組んでこられました。その中で、地域専門人材育成・リカレント教育支援センターを新設し、地域ニーズに応えるための支援体制を構築されました。これら一連の取組により、外部資金の獲得を増加させただけでなく、全学的な適正配分と有効活用を図るなど、優れたマネジメント力も発揮されています。</p> <p>このように、仁科氏は、学長に求められる資質・能力を備えた人物です。医学部は、仁科弘重氏が、愛媛大学が更なる発展を遂げるためのリーダーとして最適任であると確信し、次期学長候補適任者としてここに推薦致します。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。



愛媛大学学長選考会議議長 殿

推 薦 書

学部名 工学部

ふりがな 学長候補適任者氏名	にしな ひろしげ 仁科 弘重
職 名	国立大学法人愛媛大学理事(社会連携・企画担当)・副学長 愛媛大学社会連携推進機構長 愛媛大学大学院農学研究科教授
推薦理由 (800字以内)	
<p>仁科弘重先生は、平成27年度～令和2年度の間、理事・副学長・社会連携推進機構長として、愛媛大学の戦略「地域産業イノベーションを創出する機能の強化」を担われ、その実現のため強いリーダーシップ及びコミュニケーション力をもって地域産業特化型研究センターでのプロジェクト研究や共同研究による新事業の創出並びに地域協働型センターでの地域活性化に貢献されました。また、県内全市町との連携協定を締結し、県内のステークホルダーとの協働体制を構築されました。さらに、平成30年以降、工学部のエンジニアリングモール構想による附属センター設置では、その実現のために学内外の調整役としてご尽力を賜りました。</p> <p>戦略「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」においては、本学の研究者、研究者グループが計画する地域の活性化及び課題解決のプロジェクト等に係る取組を支援する「愛媛大学地域志向教育研究支援事業」を整備されるとともに、平成29年度からは地域協働センター西条における「地域創生イノベーター育成プログラム」を開催するなど、リカレント教育の提供を積極的に行ってこられました。</p> <p>また、企画担当理事としては、令和2年度の人文社会科学部研究科、教育学研究科の改組、並びに医学系研究科看護学専攻博士後期課程の設置を実現されました。現在は研究科等関係課程の令和4年度設置に向けて、関係研究科と文部科学省との間にたって、その交渉力と調整力を発揮されています。</p> <p>仁科弘重先生は、愛媛大学の強み・特色を踏まえたビジョンのもとで、優れた指導力と実行力により実績をあげられていることから、学長に求められる資質・能力を兼ね備えた人物であり、本学が今後更に発展するためには必要不可欠なリーダーであると確信しています。</p> <p>愛媛大学の第4期中期目標期間を牽引していただきたく、工学部は仁科弘重先生を次期学長候補適任者として推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

愛媛大学学長選考会議議長 殿

## 推 薦 書

学部名 農 学 部

<small>ふりがな</small> 学長候補適任者氏名	にしな ひろしげ 仁科 弘重
職 名	国立大学法人愛媛大学 理事・副学長（社会連携・企画担当） 社会連携推進機構長 農学研究科 教授
<p>推薦理由（800字以内）</p> <p>仁科弘重氏は、昭和61年3月に本学農学部着任後、平成10年4月から農学部教授、平成18年3月から農学部副学部長、平成23年4月から農学部長を歴任し、平成27年から理事・副学長・社会連携推進機構長に就任されました。緑化感性工学、生物環境調整学、環境制御学を専門とし、本学で植物工場を立ち上げ、大学の研究を社会貢献につなげました。現在、日本学術会議会員であり、農学委員会幹事、農業生産環境工学分科会委員長を務めておられます。</p> <p>管理運営・社会貢献面では、社会連携担当理事・社会連携推進機構長として、愛媛大学の3つの戦略のうち「地域産業イノベーションの創出」を担われ、県内市町との連携協定締結や寄附講座設置、地域協働型センターの設置、COC・COC+事業の推進等により、「地域専門人材」の育成、地域産業のイノベーションと新事業の創出、地域活性化に貢献されています。</p> <p>教育研究組織改革面では、農学部長として、農学部・農学研究科を1学科・1専攻から3学科・3専攻へ改組し、農学研究科を部局化することにより、「食料・生命・環境」の各視点から学ぶ独自のカリキュラムを構築するとともに、修士課程に直結させ、6年一貫教育で高度な専門的知識を身につけさせる特別コースを設置するなど、自然と共生する接続可能な社会の構築や、SDGsの項目達成に貢献できる人材の輩出に貢献されました。また、現在、企画担当理事として大学院改組を担われており、文部科学省との折衝や学内調整において、リーダーシップを発揮されています。</p> <p>このように、仁科弘重氏は農学部・農学研究科、大学運営の機能強化や環境整備において優れた指導力と実行力で着実に実績をあげており、国立大学法人愛媛大学学長選考基準に定める、学長に求められる資質・能力を備えた人物であり、本学の更なる発展にとって不可欠であると確信し、農学部は次期学長候補適任者として推薦いたします。</p>	

備考 「職名」欄：現職名（必要に応じ、元職名）を記入する。

# 經 歷 書

第5号様式

経 歴 書

ふりがな 氏 名	にしな ひろしげ 仁科 弘重	生年月日	
現住所			
年 月	学 歴		
昭和49	4	東京大学教養学部理科Ⅱ類入学	
昭和51	4	東京大学農学部農業工学科進学	
昭和53	3	東京大学農学部農業工学科卒業	
昭和53	4	東京大学大学院農学系研究科修士課程入学	
昭和55	3	東京大学大学院農学系研究科修士課程修了	
昭和55	3	農学修士（東京大学）	
昭和60	12	農学博士（東京大学）	
年 月	職 歴		
昭和55	4	東京大学農学部助手（昭和61年2月まで）	
昭和61	3	愛媛大学農学部助教授（平成10年3月まで）	
平成10	4	愛媛大学農学部教授（平成28年3月まで）	
平成11	4	愛媛大学農学部附属制御化農業実験実習施設長 （平成15年3月まで）	
平成17	4	愛媛大学地域共同研究センター副センター長（平成18年3月まで）	
平成18	3	愛媛大学農学部副学部長（教育改革担当）（平成23年3月まで）	
平成18	4	愛媛大学教育研究評議会評議員（平成22年3月まで）	
平成18	4	愛媛大学産業科学技術支援センター副センター長 （平成19年3月まで）	
平成23	4	愛媛大学農学部長（平成27年3月まで）	
平成24	4	愛媛大学植物工場研究センター長（令和2年3月まで）	

平成27	4	愛媛大学理事・副学長（社会連携・渉外担当）、社会連携推進機構長 （平成30年3月まで）
平成28	4	愛媛大学大学院農学研究科教授（組織変更のため：現在に至る）
平成29	10	日本学術会議会員（※）（内閣総理大臣からの辞令：現在に至る）
平成30	4	愛媛大学理事・副学長（社会連携・企画担当）、社会連携推進機構長 （現在に至る）
令和 2	6	一般社団法人えひめベンチャー支援機構代表理事（現在に至る）

※：会員、農学委員会幹事、食料科学委員会委員、農業生産環境工学分科会委員長、食料情報システム学分会委員、地域総合農学分科会委員、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会委員、CIGR分科会委員

## 業 績

### 学会活動：

日本生物環境工学会・会長（平成31年1月から、現在に至る）

### 受賞歴：

平成 5年10月	日本植物工場学会・学術奨励賞
平成 6年 1月	日本植物工場学会・論文賞
平成12年 8月	日本生物環境調節学会・学会賞
平成21年 5月	日本農業工学会・フェロー
平成21年 9月	日本生物環境工学会・論文賞
平成22年 9月	日本生物環境工学会・フェロー
平成24年 9月	日本生物環境工学会・功績賞
平成25年 2月	愛媛県政発足記念日知事表彰

業績（学術論文） 別紙のとおり

(経歴書) 別紙

業 績 (学術論文)

仁 科 弘 重

- 1) T. Takakura and H. Nishina, A solar greenhouse with phase change energy storage and a microcomputer control system, *Acta Horticulturae*, 115(II), 583-590, 1981
- 2) T. Takakura, H. Nishina and K. Kurata, A simulation analysis of solar greenhouses with underground heat storage units, *Proceedings of the Second International Seminar on Energy Conservation and the Use of Renewable Energies in the Bio-industries*, Pergamon Press, 634-639, 1982
- 3) 仁科弘重, 高倉 直, 潜熱蓄熱材の特性試験と小型温室における暖房実験, *農業気象*, 39(3), 201-211, 1983
- 4) 仁科弘重, 高倉 直, 竹田武司, 町田育彦, 空気集熱方式による模型温室の暖房実験, *農業気象*, 39(4), 311-314, 1984
- 5) H. Nishina and T. Takakura, Greenhouse heating by means of latent heat storage units, *Acta Horticulturae*, 148(II), 751-754, 1984
- 6) 仁科弘重, 高倉 直, 実用規模温室での暖房実験, *農業気象*, 40(4), 313-321, 1985
- 7) H. Nishina and T. Takakura, Solar-heating greenhouses by means of latent heat storage units, *Proceedings of the International Symposium on Thermal Application of Solar Energy*, International Solar Energy Society, 543-545, 1985
- 8) 橋本 康, 丹生谷 太, 易 佑林, 仁科弘重, 安西良矩, 山崎広義, 中山繁樹, 池田 彰, パルス光照射光源によるサラダナの光合成特性, *生物環境調節*, 25(3), 127-129, 1987
- 9) Y. Hashimoto, Y. Yi, T. Morimoto, F. Nyunoya, H. Nishina and Y. Nakane, Pilot chamber for the identification of the growth process in a vegetable factory, *Selected Papers from the 10th Triennial World Congress of the International Federation of Automatic Control*, Pergamon Press, 333-338, 1987
- 10) 羽藤堅治, 仁科弘重, 近泉惣次郎, 橋本 康, ミカン病虫害診断エキスパートシステム, *生物環境調節*, 26(4), 185-186, 1988
- 11) H. Nishina, T. Takakura and Y. Hashimoto, Solar heating of a commercial greenhouse by means of latent heat storage, *Acta Horticulturae*, 230, 555-558, 1988
- 12) K. Hatou, H. Nishina and Y. Hashimoto, Computer integrated agricultural production, *Proc. of 11th IFAC World Congress*, 281-285, 1990
- 13) K. Hatou, H. Nishina and Y. Hashimoto, Tomato cultivating support system based on computer integrated agricultural production (CIAP), *Proceedings of the 3rd International Congress for Computer Technology*, 100-107, 1990

- 14) 浅海英記, 仁科弘重, 福山寿雄, 橋本 康, 植物が室内環境に及ぼすグリーンアメニティー効果のシミュレーションによる検討, 植物工場学会誌, 3(1), 31-38, 1991
- 15) H. Nishina, I. H. Cho and Y. Hashimoto, Two approaches to environmental control in greenhouses -Heat balance analysis and system identification in heating system with heat pump-, Proceedings of the IFAC/ISHS Workshop on Mathematical and Control Applications in Agriculture and Horticulture, Pergamon Press, 63-66, 1991
- 16) 趙 日煥, 仁科弘重, 田中基司, 橋本 康, 自然光利用型植物工場の夏期昼間の局所冷房—トマトの尻腐れとの関連も含めて—, 植物工場学会誌, 4(1), 30-39, 1992
- 17) T. Morimoto, H. Nishina, Y. Hashimoto and H. Watake, Sensor for ion-control -An approach to control of nutrient solution in hydroponics-, Acta Horticulturae, 304, 301-308, 1992
- 18) H. Nishina, M. Miyoshi and Y. Hashimoto, Optimal environmental condition for carnation cultivated in nursery plants system, Acta Horticulturae, 319(1), 313-316, 1992
- 19) 浅海英記, 仁科弘重, 増井典良, 橋本 康, アメニティー植物の蒸散量、気孔抵抗および遮光率の測定, 植物工場学会誌, 4(2), 131-138, 1993
- 20) 青野忠勝, 仁科弘重, 渡部憲幸, 松本 文, 高床式開放鶏舎における除糞による環境改善効果, 生物環境調節, 31(1), 37-42, 1993
- 21) 仁科弘重, 青野忠勝, 浅海英記, 高床式開放鶏舎における除糞の環境改善効果のシミュレーションによる検討, 生物環境調節, 31(2), 81-85, 1993
- 22) 仁科弘重, 松本 文, 橋本 康, システム同定による温室内温度環境の解析, 生物環境調節, 31(4), 189-195, 1993
- 23) 仁科弘重, 趙 日煥, 田中基司, 橋本 康, 果実送風によるトマト尻腐れ発生防止とそのメカニズムの解明, 植物工場学会誌, 5(1), 26-38, 1993
- 24) 青野忠勝, 仁科弘重, 渡部憲幸, 高床式開放鶏舎における除糞機の開発に関する研究 (I) けん引性能と除糞効率, 農業施設, 24(4), 231-239, 1994
- 25) 青野忠勝, 仁科弘重, 脇岡健次, 渡部憲幸, 冬期における高床式開放鶏舎内環境の測定, 生物環境調節, 32(4), 225-229, 1994
- 26) 浅海英記, 仁科弘重, 塚西 圭, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物が室内の温熱環境および温熱快適性に及ぼす影響—冬期における実験による解析—, 日本建築学会計画系論文集, 464, 39-16, 1994
- 27) H. Nishina, T. Morimoto and Y. Hashimoto, Identification of plant production system based on neural networks, Proceedings of the First Asian Control Conference, Vol.3, 13-16, 1994
- 28) H. Nishina, I. Cho and Y. Hashimoto, Zone cooling system in greenhouse automation, Proceedings of the First Asian Control Conference, Vol.2, 17-20, 1994
- 29) 浅海英記, 仁科弘重, 難波亮子, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物の印象の評価, および, 観葉植物を配置した室内の居住者心理のSD法による評定, 植物工場学会誌, 7(1), 34-45, 1995
- 30) 浅海英記, 仁科弘重, 中村博文, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物を見ることがVDT作業に伴

- う視覚疲労に及ぼす影響, 植物工場学会誌, 7(3), 138-143, 1995
- 31) 仁科弘重, 中村博文, 浅海英記, 増井典良, 橋本 康, 植物を配置した室内の温熱環境・快適性の予測モデルの作成, 生物環境調節, 33(4), 277-284, 1995
- 32) H. Asaumi, H. Nishina and Y. Hashimoto, Studies on amenity of indoor plants, *Acta Horticulturae*, 391, 111-118, 1995
- 33) H. Nishina, M. Tanaka and Y. Hashimoto, Optimum system of zone cooling in greenhouse, *Acta Horticulturae*, 399, 149-155, 1995
- 34) H. Nishina, Y. Hashimoto and A. Matsumoto, Identification and control of air temperature in greenhouse systems, *Acta Horticulturae*, 406, 29-37, 1996
- 35) H. Nishina, M. Ohtsuka, K. Umakoshi and Y. Hashimoto, Experimental analysis of influence of air temperature, ventilation and shading on cooling load and CO<sub>2</sub> concentration in zone cooling system in greenhouse, *Acta Horticulturae*, 440, 245-250, 1996
- 36) H. Nishina, K. Yoshida, N. Masui and Y. Hashimoto, Storage of tomato seedling plant plugs under faint irradiation and low temperature, *Acta Horticulturae*, 440, 268-273, 1996
- 37) H. Nishina, K. Umakoshi and Y. Hashimoto, Control of air temperature in nursery plants production system by LQI control with Kalman filter, Preprints of the 3rd IFAC Workshop on Mathematical and Control Applications in Agriculture and Horticulture, Pergamon, 13-18, 1997
- 38) T. Aono, H. Nishina, N. Watanabe and Y. Hashimoto, Ammonia control by removing manure in open type poultry house, Proceedings of the International Symposium on Ammonia and Odour Control from Animal Production Facilities (Volume I), 311-316, 1997
- 39) H. Nishina, T. Aono, K. Maruyama and Y. Hashimoto, Ammonia control by ventilation in semi-closed type poultry house, Proceedings of the International Symposium on Ammonia and Odour Control from Animal Production Facilities (Volume II), 627-630, 1997
- 40) 仁科弘重, 中本有美, 渡森 里, 増井典良, 橋本 康, 観葉植物が人間の心理に及ぼすアメニティ効果の脳波およびSD法による解析, 植物工場学会誌, 10(2), 65-69, 1998
- 41) 仁科弘重, 吉田 孝, 長友亨治, 三好正直, 橋本 康, ロックウール粒状綿を利用した養液栽培システムにおける高糖度トマト生産(第1報)水切り下における植物生体情報の測定と解析, 植物工場学会誌, 10(2), 113-118, 1998
- 42) 仁科弘重, 中本有美, 観葉植物、花、香りが人間に及ぼす生理・心理的効果の脳波およびSD法による解析, 日本建築学会計画系論文集, 509, 71-75, 1998
- 43) 中本有美, 仁科弘重, 増井典良, 橋本 康, 衝立の代わりに用いた観葉植物が人間の心理に及ぼすアメニティ効果の解析, 植物工場学会誌, 11(2), 136-139, 1999
- 44) 仁科弘重, 川西高司, 観葉植物が室内の温熱環境および温熱快適性に及ぼす影響—春期, 夏



- 期における実験による解析一, 生物環境調節, 37(1), 73-81, 1999
- 45) 仁科弘重, グリーンアメニティに関する研究, 生物環境調節, 38(4), 285-288, 2000
- 46) 中本有美, 仁科弘重, 橋本 康, 観葉植物、イミテーションプランツ、写真の違いが人間の心理に及ぼすアメニティ効果の解析, 生物環境調節, 39(3), 167-173, 2001
- 47) 仁科弘重, 河野信一郎, 山本志穂, 長友亨治, ロックウール粒状綿を利用した養液栽培システムにおける高糖度トマト生産 (第2報) ロックウールの水分量、pF、種類がトマトの蒸散量に及ぼす影響の解析, 植物工場学会誌, 14(4), 197-203, 2002
- 48) 乗松貞子, 仁科弘重, 家串香奈, 植物を育てるプロセスにおける高齢者の心理状態の脳波およびSD法による解析一若年者との比較も含めて一, 植物環境工学, 18(2), 97-104, 2006
- 49) 高山弘太郎, 石神靖弘, 後藤英司, 久枝和昇, 仁科弘重, 大規模ガラス温室内のトマト群落におけるクロロフィル蛍光パラメータ(Fv/Fm)、SPAD 値およびクロロフィル濃度の垂直分布の解析, 植物環境工学, 18(4), 277-283, 2006
- 50) K. Hatou, K. Hisaeda, M.S. Baloch, T. Morimoto and H. Nishina, The model for non-destructive measurement of tomato leaf area, *Environmental Control in Biology*, 44(3), 173-179, 2006
- 51) 久枝和昇, 仁科弘重, 大規模トマト生産温室における生産性向上に関する研究一積算日射量に基づいたトマトの出荷量予測一, 植物環境工学, 19(1), 11-17, 2007
- 52) 久枝和昇, 高山弘太郎, 仁科弘重, 東 幸太, 有馬誠一, 大規模トマト生産温室における生産性向上に関する研究一トマト群落における光強度とCO<sub>2</sub> 固定量の垂直分布の解析一, 植物環境工学, 19(1), 19-26, 2007
- 53) K. Takayama, Y. Sakai, H. Nishina and K. Omasa, Chlorophyll fluorescence Imaging at 77K for Assessing the Heterogeneously Distributed Light Stress Over a Leaf Surface, *Environmental Control in Biology*, 45(1), 39-46, 2007
- 54) S. Norimatsu, H. Nishina, K. Nozaki and K. Takayama, Analysis of the psychological state of elderly people in the process of raising plants from seedlings and bulbs by means of brain waves and the semantic differential technique -Including comparison with young people-, *Environmental Control in Biology*, 45(3), 143-153, 2007
- 55) 高山弘太郎, 仁科弘重, 坂井義明, クロロフィル蛍光画像計測法によるハイゴケ(*Hypnum plumaeforme*)の光合成機能解析, *Eco-Engineering*, 19(1), 49-57, 2007
- 56) 高山弘太郎, 仁科弘重, 成原貴博, 長野洋文, 高倉 直, クロロフィル蛍光計測法によるシバ (*Zoysia matrella* Marr.)群落の光合成速度の定量評価, *Eco-Engineering*, 19(2), 95-101, 2007
- 57) 高山弘太郎, 仁科弘重, 施設園芸における植物診断のためのクロロフィル蛍光画像計測, 植物環境工学, 20(3), 143-151, 2008
- 58) 仁科弘重, グリーンアメニティの心理的効果に関する最近の研究, 植物環境工学, 20(4), 236-241, 2008
- 59) K. Takayama, H. Nishina and Y. Sakai, Detection of water stress induced photosynthetic

- dysfunction in tomato plant leaf with PRI measurement, *Acta Horticulturae*, 801(2), 1213-1219, 2008
- 60) 高山弘太郎, 仁科弘重, 山本展寛, 羽藤堅治, 有馬誠一, デジタルカメラを用いた投影面積モニタリングによるトマトの水ストレス早期診断, *植物環境工学*, 21(2), 59-64, 2009
- 61) K. Takayama and H. Nishina, Chlorophyll fluorescence imaging of the chlorophyll fluorescence induction phenomenon for plant health monitoring, *Environmental Control in Biology*, 47(2), 101-109, 2009
- 62) 高山弘太郎, 仁科弘重, 大泉喬子, 有馬誠一, 羽藤堅治, 弱光励起クロロフィル蛍光インダクション画像計測による光阻害の検知, *Eco-Engineering*, 21(2), 69-74, 2009
- 63) T. Takakura, C. Kubota, S. Sase, M. Hayashi, M. Ishii, K. Takayama, H. Nishina, K. Kurata, G.A. Giacomelli, Measurement of evapotranspiration rate in a single-span greenhouse using the energy-balance equation, *Biosystems Engineering*, 102, 298-304, 2009
- 64) 仁科弘重, 太陽光利用型植物工場の知能化のための Speaking Plant Approach 技術, 学術の動向, 15(6), 62-70, 2010
- 65) 高山弘太郎, 仁科弘重, 久枝和昇, 末岐 剛, 原田 聡, 太陽光利用型植物工場のトマト群落における光合成機能の空間分布の解析, *植物環境工学*, 22(4), 175-180, 2010
- 66) 仁科弘重, 太陽光利用型植物工場の知能化のための Speaking Plant Approach 技術 (小特集: 農業生産技術の将来展望), *日本機械学会誌*, 113(1100), 547-549, 2010
- 67) 有馬誠一, 仁科弘重, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 上加裕子, 岡 侍秀, 知的植物工場における植物生育診断ロボットの開発, *ロボティクス, メカトロニクス講演会講演概要集*, 2010, 1A1-B04, 2010
- 68) 坂井義明, 高山弘太郎, 仁科弘重, クロロフィル蛍光計測によるトマト接ぎ木セル苗の光合成機能診断, *植物環境工学*, 23(3), 101-106, 2011
- 69) K. Takayama, Y. Sakai, T. Oizumi and H. Nishina, Assessment of photosynthetic dysfunction in a whole tomato plant with chlorophyll fluorescence induction imaging, *Environmental Control in Biology*, 48(4), 151-159, 2011
- 70) 三並めぐる, 仁科弘重, 續木寛子, 高山弘太郎, 教室内に植物を置くことおよび植物を育てることが高校生の心理に及ぼす効果の解析, *Eco-Engineering*, 23(2), 47-55, 2011
- 71) 三並めぐる, 仁科弘重, 古谷朋子, 高山弘太郎, 生徒どうして協力して植物を育てることが高校生の心理に及ぼす効果の解析, *Eco-Engineering*, 23(4), 111-121, 2011
- 72) K. Takayama, H. Nishina, K. Mizutani, S. Arima, K. Hatou and Y. Miyoshi, Chlorophyll fluorescence imaging for health condition monitoring of tomato plants in greenhouse, *Acta Horticulturae*, 893(2), 333-339, 2011
- 73) K. Takayama, H. Nishina, K. Mizutani, S. Iyoki, S. Arima, K. Hatou and Y. Miyoshi, Evaluation of photosynthetic functions of tomato plants in greenhouse with chlorophyll fluorescence induction imaging system, *Acta Horticulturae*, 907(1), 337-342, 2011

- 74) K. Takayama, H. Nishina, S. Iyoki, S. Arima, K. Hatou, Y. Ueka, Y. Miyoshi, Early detection of drought stress in tomato plants with chlorophyll fluorescence imaging - Practical application of the speaking plant approach in a greenhouse-, IFAC Proceedings, 44(1), 1785-1790, 2011
- 75) 有馬誠一, 上加裕子, 神村泰地, 仁科弘重, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 太陽光利用型知的植物工場におけるマルチオペレーションロボットの開発 (農業用ロボット、メカトロニクス), ロボティクス, メカトロニクス講演会講演概要集, 1A1-A02, 2011
- 76) 仁科弘重, 有馬誠一, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 植物工場技術の研究・開発および実証・展示・教育拠点 (1) 愛媛大学, 植物環境工学, 24(1), 5-9, 2012
- 77) N. Takahashi, K. Okamura, Y. Matsuda, K. Igari, K. Kato, H. Asao, T. Matsui, E. Takita, K. Sawada, H. Murase, K. Takayama, H. Nishina, Effects of air flow on production of vaccine protein against swine edema disease in transgenic lettuce, Environmental Control in Biology, 50(2), 135-141, 2012
- 78) K. Takayama, Y. Miguchi, Y. Manabe, N. Takahashi, H. Nishina, Analysis of  $\Phi$ PSII and NPQ during the slow phase of the chlorophyll fluorescence induction phenomenon in tomato leaves, Environmental Control in Biology, 50(2), 181-187, 2012
- 79) K. Takayama, R.M.C. Jansen, E.J. van Henten, F.W.A. Verstappen, H.J. Bouwmeester, H. Nishina, Emission index for evaluation of volatile organic compounds emitted from tomato plants in greenhouses, Biosystems Engineering, 113(2), 220-228, 2012
- 80) N. Takahashi, H. Nishina, K. Takayama, S. Futagami, T. Kamura, T. Nakahara, Analysis for the effect of roof greening in warehouse by mean of simulation, Environmental Control in Biology, 51(3), 99-103, 2013
- 81) 有馬誠一, 上加裕子, 河野将大, 仁科弘重, 羽藤堅治, 高山弘太郎, 高橋憲子, S. Dhanashri, 太陽光利用型植物工場の生産性向上のためのマルチオペレーションシステムの開発 (農業用ロボット、メカトロニクス), ロボティクス, メカトロニクス講演会講演概要集, 1A1-Q08, 2013
- 82) N. Takahashi, H. Maki, K. Takayama and H. Nishina, Estimation of tomato fruit color change with different storage temperatures at different maturity stages, Acta Horticulturae, 1037, 385-390, 2014
- 83) K. Takayama, R. Hirota, N. Takahashi, H. Nishina, S. Arima, K. Yamamoto, Y. Sakai and H. Okada, Development of chlorophyll fluorescence imaging robot for practical use in commercial greenhouse, Acta Horticulturae, 1037, 671-676, 2014
- 84) K. Takayama, C. Morimoto, N. Takahashi and H. Nishina, Distributions of stem diameter and stem elongation rate in a large-scale tomato production greenhouse -Measurement of thousand plants-, Acta Horticulturae, 1037, 721-726, 2014
- 85) 橋田祐二, 高橋昭彦, 下元耕太, 高橋憲子, 仁科弘重, 高山弘太郎, 高軒高温室における長期

- の加湿処理による飽差環境の違いがパプリカの葉の形態, 光合成機能および収穫物に及ぼす影響, *Eco-Engineering*, 27(3), 91-98, 2015
- 86) Md.M. Alam, T. Tanaka, H. Nakamura, H. Ichikawa, K. Kobayashi, T. Yaeno, N. Yamaoka, K. Shimomoto, K. Takayama, H. Nishina and M. Nishiguchi, Overexpression of a rice heme activator protein gene (OsHAP2E) confers resistance to pathogens, salinity and drought, and increases photosynthesis and tiller number, *Plant Biotechnology Journal*, 13, 85-96, 2015
- 87) 橋田祐二, 高橋昭彦, 高橋憲子, 仁科弘重, 高山弘太郎, 高軒高温室における夜間気温および養液濃度の違いがパプリカの生育と収量に及ぼす影響. *Eco-Engineering*. 28(2). 29-36. 2016
- 88) 下元耕太, 仁科弘重, 高橋憲子, 高山弘太郎, 個葉光合成特性評価のための標準的計測プロトコルにおける気孔コンダクタンスとリン酸律速の影響, *Eco-Engineering*, 29(3), 73-80, 2017
- 89) N. Takahashi, N. Yokoyama, K. Takayama, H. Nishina, Estimation of tomato fruit lycopene content after storage at different storage temperatures and durations, *Environmental Control in Biology*, 56(4), 157-160, 2018
- 90) 下元耕太, 仁科弘重, 高橋憲子, 高山弘太郎, 表計算ソフト Excel を用いた施設生産トマトの年間期待収穫量概算ツールの開発, *Eco-Engineering*, 30(2), 47-58, 2018
- 91) 羽藤堅治, 仁科弘重, 西欧型太陽光植物工場 (愛媛大学植物工場研究センター) の可能性, *植物環境工学*, 53(3), 24-27, 2019
- 92) 戸田清太郎, 高山弘太郎, 加納多佳留, 藤内直道, 高橋憲子, 仁科弘重, クロロフィル蛍光画像計測ロボットを用いた日単位の茎伸長計測, *Eco-Engineering*, 32(2), 15-21, 2020
- 93) 戸田清太郎, 高山弘太郎, 加納多佳留, 藤内直道, 高橋憲子, 仁科弘重, トマト個体群を対象とした多元的画像計測装置の開発, *Eco-Engineering*, 32(2), 33-37, 2020
- 94) K. Shimomoto, K. Takayama, N. Takahashi, H. Nishina, K. Inaba, Y. Isoyama, S. Oh, Real-time monitoring of photosynthesis and transpiration of a fully-grown tomato plant in greenhouse, *Environmental Control in Biology*, 2020 (in press)
- 95) 磯山侑里, 高山弘太郎, 王震中, 藤内直道, 高橋憲子, 仁科弘重, 高精度蒸散リアルタイムモニタリングシステムを用いたトマト個体群の水ストレス応答の評価, *Eco-Engineering*, 2020 (in press)

# 受諾書

第6号様式

令和 2年 7月 21日

愛媛大学学長選考会議議長 殿

受 諾 書


国立大学法人愛媛大学学長選考に係る学長候補者として選出された場合は、これを受諾します。

氏 名 仁 科 弘 重



# 所 見

所 見

<p>学長候補適任者氏名</p>	<p>仁 科 弘 重 </p>
<p>このたび、すべての学部から、次期の学長候補適任者としてご推薦をいただきました。このことは、大変な光栄であると同時に、責任の重さに身の引き締まる思いであります。</p> <p>今後も続くことが確実な社会変化は①少子化、②長寿命化、③働き方の多様化、④国家財政の危機的状況であり、これらの状況の中で、大学は「地域における知の拠点」としての機能を果たすことを目指さなければなりません。①は学部学生定員の削減に繋がる可能性があり、②及び③はセカンドジョブ、セカンドキャリアをもつのが普通である社会への移行に必要な社会人再教育の推進に、また、④は大学が保有している知的財産の活用による資金獲得に繋げていく必要があります。</p> <p>まず、本学の戦略を担っている「4つの機能」については、次のように考えます。</p> <p>教育については、FD/SD活動、AP/CP/DP、「愛大学生コンピテンシー」などが全国的に大変高い評価を受けており、愛媛大学の財産の一つです。今後は、Society 5.0 や超スマート社会の実現に係わる新たな教育に加えて、地球環境問題、世界的感染症リスクがより深刻化することが予想されることから、SDGs など人類の生存により直接的に係わる知識、技術に関する教育も必要であると考えます。</p> <p>先端研究については、世界的に大きな成果を上げてきた3センターの発展方策の検討に加えて、どの程度の規模のセンターをどの程度（数）設置、活動すべきなのか、また、それを実現するための方策は現在のRU制度でよいのかなど、再度の議論が必要と考えます。</p> <p>社会連携については、地域協働センター西条、地域協働センター南予などの「地域密着型センターを県内各地域に設置した」ことが本学の最大の特徴であり、文部科学省からも評価されています。文系の地域密着型研究センターも設置しました。また、教員が持っている知的財産の価値が社会から適正に評価されるための制度整備と、「大学発ベンチャー」を推進するための組織整備を行ってきました。本年度末までに予定している「地域協働センター中予（仮称）」、「アグリ、機能性食品、健康に係わる研究センター」が設置された段階で、一応の体制整備ができると考えており、その後、各学部附属のセンターとの連携協力も含めて、活動の実質的な充実に取り組むべきであると考えます。</p>	



国際連携については、アジアからの留学生の受け入れ、本学学生の派遣という学生交流をベースにした活動は、現下のコロナ禍の中では厳しい状況が続くと考えられます。一方、「学術研究に関する国際連携」に関しては、共同研究・共同利用拠点、先端研究センター、海外サテライト、特色ある研究者などが多くの研究連携を展開しており、今後もこれらの活動を進展させたいと考えます。

上記に加えて、今後、本学が取り組むべき新たな方策には、下記を考えています。

(1) 地域連携プラットフォーム

文部科学省から設置を求められており、既に各方面と意見交換を始めていますが、「高等教育機関である大学として参画するのが適切な活動を中心に、地域創生に取り組む」ことを基本的な立ち位置にしたいと考えます。

(2) 他県の大学との連携

当面の間、「大学等連携推進法人（仮称）」制度を活用し、四国内での教職課程の共同設置を始めとして、連携が効果的な分野に特化した連携を進めるべきと考えます。

(3) 社会ニーズに対応した大学院改革

「研究科等関係課程」制度を活用して、社会的ニーズが高く、With/After コロナの社会で求められる分野に学位プログラムを設置したいと考えます。

(4) 各学部の役割の戦略的見直し

各学部の役割について、卒業生、修了生が先端研究、技術開発、社会実装、地域活性化のどの活動に貢献するのかという視点から、「地域枠」導入の適否も含めて、戦略的に見直す必要があると考えます。

(5) 教員ポイント制

教員ポイント制については、「学内クロスアポイントメント」制度の導入の適否も含めて、改変の方向で議論すべきと考えます。

これらの他に、SDGsの推進、教員の研究成果発信のための「愛媛大学出版」の設立に取り組むとともに、学内の意思疎通をより一層図りたいと考えます。

本年2月に行われた文部科学省との徹底対話については、企画担当の理事として参画させていただきました。当面の間は、この時まとめた「現状と課題」をベースに、本学のさまざまな方策を考えていく必要があります。本学のビジョンに関しては、第4期中期目標期間の目標、計画の策定に合わせて、若干の見直しを行いたいと考えます。With/After コロナの社会では、価値観がどのように変わるのか、また、どのような社会が期待されるのか、地域における知の拠点として、新たな社会の構築に貢献したいと考えています。その議論や新たな社会の構築の中で、「地方の優位性」が見いだせることを期待したいと思います。